口腔機能実地指導講習会 受講レポート

1. 講習内容について

今回の講習では、口腔機能発達不全症および口腔機能低下症の概要や検査・診断基準、訓練方法、実地指導の方法について学んだ。

特に、口腔機能低下症については、口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下の7項目から評価を行うことを学んだ。単に口腔内の状態だけを見るのではなく、口腔機能を多方面から評価することが重要であると理解した。

また、評価を行って終わりではなく、その結果に応じて訓練や指導を実施し、記録を残したうえで定期的に再評価するという一連の流れについても学んだ。

2. 印象に残ったこと・学んだこと

今回の講習で特に印象に残ったのは、訓練は「自宅で続けられる」ことを前提として、一人ひとりに合わせて行うことが重要であるという点である。

口腔機能の改善には継続的な取り組みが必要であるため、歯科医院で指導するだけではなく、患者自身が日常生活の中で無理なく継続できる方法を考えることが大切だと感じた。

また、口腔機能低下を早期に発見し、適切な訓練や指導を行うことは、口腔機能の維持・回復だけでなく、全身の健康や生活の質を維持することにもつながると学んだ。

3. 今後の業務に活かしたいこと

今後は、患者の口腔内の状態だけを見るのではなく、口腔機能にも目を向けていきたいと思う。

特に高齢の患者に対しては、日頃の会話や食事についての聞き取りなどから、口腔機能の変化や困りごとに気づけるよう意識したい。また、必要に応じて口腔機能の検査や評価につなげ、一人ひとりの状態に合わせた訓練・指導を行えるよう、今回学んだ内容を実際の診療に活かしていきたい。